

グラフ処理の実施での操作手順

早く・簡単に作成するには
SASデータの移行も含めて



目次

- 印刷設定
- グラフの種類
- 一寸した見やすさの設定
- SASからのデータ移行



印刷設定 1 (各種形式)

- PDFファイルへの出力

- # PDF fileの設定

- pdf.graph(file="test.pdf", color=T)
 - # グラフcommands
 - dev.off() # 出力先を元に戻す

- JPEGファイルへの出力

- # JPEG fileの設定

- graphsheet(format='JPG', file="plot##.jpg")
 - # グラフcommands
 - dev.off() # 出力先を元に戻す



印刷設定 2 (各種形式)

- プリンターへの直接印刷

- プリンター指定

- `graphsheet(format="printer")`
 - # グラフcommands
 - `dev.off()` # 出力先を元に戻す

分割して表示

- # 横 1ページあたり 1x3 の指定

- `par(mfrow=c(1,3))`

- その他色々あり



グラフの種類 1

- 箱ひげ図 類別なし

- `boxplot(XXXXX , xlab="XXXXXX" , ylab="")`

- 箱ひげ図 類別あり

- `boxplot(split(AGE , SEX) , xlab="SEX" , ylab="AGE")`

- 幹葉表示

- `stem(変数名)`

- 1変数箱ヒストグラムの作成

- `hist(wkcat2 , xlab=i, ylab="" , main="全投与群")`



グラフの種類 2

- ヒストグラム--階級幅, 階級数, 相対度数
 - `hist(x, breaks=c(階級幅list), nclass=階級数, probability=TRUE)`
- 2変数散布図の作成
 - `plot(B12, DE23, xlim=c(lo, hi), ylim=c(lo, hi))`



一寸した見やすさの設定 1

- graphを正方形で作成
 - `par(pty="s")`
- 45度参照線
 - `abline(0, 1, lty = 1)`
- X=0の参照線, Y=0の参照線
 - `abline(v=0, lty = 2)`
 - `abline(h=0, lty = 2)`



一寸した見やすさの設定 2

- 最小2乗法による回帰直線を描く
 - `abline(lsfite(x,y))`
- legendの置く位置を画面上で決める
 - `legend(locator(1), c("Placebo", "Active"), lty=1:2)`
- graphの文字情報の作成
 - `title(main="上タイトル", sub="下",xlab="X軸ラベル",ylab="Y軸ラベル")`



SASからのデータ移行

- SAS to S-plus 一つの方法
 - 既存にある SAS dataset の内容を、そのまま或いはテキストファイルにし、これを用い、統計解析用のファイルないし保存ファイルとする。
 - 詳細は、別紙参照
 - 併せて、S-plusで利用可能な形式に変換する。
 - 詳細は、別紙参照



ご参考までに

- 以前SASでのコーディング量
 - 39417 ステップ
- S-PLUSに変換後のコーディング量
 - 12424 ステップ
- この違いを皆さんはどの様に考えますか？



おわり

- ご静聴有難う御座いました。

